

自由論題 4

報告テーマ

コロナ禍のインドネシア社会への影響——ジャワ・バリにおけるインタビュー調査の結果から
“The Impact of Covid19 Pandemic on the Indonesian Society: Interview Surveys in Java and Bali”

氏名(所属)

増原 綾子 (亜細亜大学)・ミヤ ドゥイ ロスティカ (大東文化大学)

要旨(800字程度)

本報告は、増原とミヤとで共同して2021年1~2月に行ったインドネシアのジャワ島・バリ島におけるインタビュー委託調査の結果に基づいて、コロナウイルスの感染拡大が深刻なこれらの地域で、一般市民の間でどのような生活の変化が起こり、彼らがどのような意識でこの危機を捉えているのかを明らかにすることを目的としている。

インタビュー調査は、コロナ禍の中で現地社会が直面している状況と、そこに暮らす一般市民の意識を探るために、現地のNGOに委託して、2021年1~2月の約1カ月間、ジャカルタ首都特別州、西ジャワ州、中ジャワ州、ジョクジャカルタ特別州、東ジャワ州、バリ州及びバンドウン市(西ジャワ州)、スマラン市(中ジャワ州)、スラバヤ市(東ジャワ州)、デンパサール市(バリ州)で、都市部・農村部に住む、合わせて100人に対して行った。これらの地域はインドネシアの中でも特に感染者が多く、政府が感染対策・経済支援策に力を入れている地域でもある。回答者は、20代から60代までの、主に一家の稼ぎ頭である男女で、フォーマルセクター(公務員、教員、民間企業従業員、工場労働者など)と、インフォーマルセクター(農民、漁民、零細事業者、運転手、建設作業員など)の別を念頭に置いて選択され、彼らに対して、個人や地域社会の感染対策、地域ごとの医療ファシリティの状況、政府の感染対策に対する考え、コロナ禍の前後での仕事・収入の変化、政府・地方政府などからの支援の有無やその評価、コミュニティの中での人間関係の変化や心の支えなど65項目について、インドネシア人インタビューアーが質問を行い、回答者に自由に答えてもらった。現地の感染状況や移動制限といった制約に配慮して、対面で、あるいは必要に応じて電話で、調査は行われた。

回答結果は、都市部と農村部との違い、フォーマルセクターとインフォーマルセクターとの違い、地域(州)ごとの違いなどに基づいて整理し、特に地域やセクターごとの経済的打撃の相違、政府の社会保障制度・弱者への支援政策の効果や課題を中心に分析する。また、危機に直面しての「心の支え」としての宗教の役割についても明らかにしたい。